

RKM会報

Vol.21

2022年11月発行

編集・発行：RKM 幹事会事務局：桑水流正邦（くわするまさくに） 〒132-0035 東京都江戸川区平井4-26-9 渡瀬方
メールアドレス：rkm634@rkm634.jp
ホームページ http://rkm634-jp.sakura.ne.jp/

RKM 会長挨拶 久我昭雄（36期）



RKM会員の皆さん、長いことお会いすることが出来ず大変残念な状況ですが、お元気にお過ごしでしょうか。

最初に悲しいお知らせですが、この一年に6名のOB、2名の先生がお亡くなりになりました。ご冥福をお祈り申し上げます。（詳細6頁）

コロナの影響も徐々に小さくなってきているようですが、まだ医療体制は厳しく、ケガ等で入院した場合でも感染対策のために見舞い等が出来ない等の話を聞きます、さらに、第8波の心配もニュースとなっています。この様な状況から、RKMとして集まり、歓談し、バスケットで汗を流すイベントは控えざるを得ないと考えております。一方、少人数で感染対策が十分とれるような環境では、懇親会やゴルフを楽しむことは問題無いとも考えており、同期や親しい仲間と集い、RKMや武蔵の話題で盛り上がって頂きたいと思っています。

この様な状況でしたが、会費・寄附のより適正な管理のために、「RKM」としての銀行口座を作成することとし、OB会の様な親睦団体でもガバナンスが求められることから、会則の見直しを臨時書面総会により実施し、無事ゆうちよ銀行に総合口座を開設することが出来ました。ご協力大変ありがとうございました。

話題が変わりますが、畑公時代から恒例だった「元旦バスケット」についてですが、元旦の過ごし方も変わってきており、元旦に武蔵に集まれるOBの人数も少なくなっていることから、開催時期を見直したいと考え始めてます（その場合は「元旦バスケット」と呼ばなくなりますが）。まだ、具体的なアイデアはありませんが、皆様のお知恵を拝借させて下さい。

最後にはお願いですが、私も高齢になり、もっと早く会長職を辞すべきだったと思っております。また、幹事団にも若手メンバーを増やすべきと考えています。ということで、我こそはと思う方は遠慮せずに手を挙げて下さい。また、私から指名させて頂いた場合は是非二つ返事で受諾して下さい。2027年のRKM100年までは現幹事団に手伝って頂きたいとも思っています（役職には拘りません）。

幹事会より

『2023年の元旦バスケットも中止とします』

本会報発行時点までコロナの状況を見ていましたが、残念ながら、今回も中止することとしました。今後のイベントについては、適宜連絡させて頂きます。

新たなRKM口座の開設手続きのため、会則の改定が必要でしたが、書面総会を経て、新口座を開設出来ました。今後も、会費の適切な管理に加えて、会費支払が便利・容易になるような工夫をしていきます。

『ゆうちょ銀行 店名：一三八（イチサンハチ） 店番：138 普通預金 口座番号：1038319』

会計資料を同封してありますが、今年度も中学コーチ支援金12万円/年/人を計上し執行させて頂きます。なお、昨年の岡田康成君（93期）・木村有統君（94期）から、今年は朝霧泰成君（95期）に引き継がれています。

現役の試合は無観客が続いていますが、山崎先生、木本コーチ、さらに現役生のご家族のご協力により、ネット配信を試みましたが、会場の通信環境によりとぎれてしまうこともありましたが、リアルタイムで見ることができ、よかったですと思います。有観客でも続けたいと思っておりますが、連盟の方針もあり、状況を見ながら判断させていただきます。

新入会員 96期紹介

はじめまして、96期のメンバーです。長い伝統を誇るRKMの一員になれたことを嬉しく思います。96期はキャプテン高橋陽(たかはしょう)、副キャプテン鬼澤修司郎(おにざわしゅうじろう)、会計廣橋凱斗(ひろはしがいと)、マネージャー北川稔基(きたがわとしき)、主務吉岡隼哉(よしおかじゅんや)の5名です。私たちの代について紹介させていただきます。

まず、キャプテンを務めた4番高橋陽。5人と少ない私たち96期の中心となる存在で小柄ながら、その類い稀なスピードから繰り出されるドリブルは相手を置き去りにし、ガッツのある激しいディフェンスは相手のガードを封殺しました。

次に、副キャプテンを務めた5番鬼澤修司郎。鋭いドリブルと強靱なフィジカル、安定したシュート力という我が代随一の攻撃力・突破力を誇りました。

6番廣橋凱斗。周囲の動きから最適なスペーシングを行い、合わせの正確なシュートで攻撃の選択肢を広げました。

7番北川稔基。エースフォワードとしてチームを引っ張り、卓越した得点能力を発揮しました。

8番吉岡隼哉。不動のセンターとして、強いフィジカルを利用してケガをかかえながらもゴール下で奮闘し、リバウンドを量産しました。

私たちは、真摯に練習に向き合い、チーム力を向上することを重視した練習を行いました。コロナの影響により、合宿を開催できず、練習を確保できる時間も短い上に部員数も少なかった一方で、その分互いにコーチングをしあうなど一回で非常に濃い練習を行えるように工



左から廣橋、鬼澤、高橋、北川、吉岡

夫をしました。

高校時代の戦績は(注: 詳細は会報20号をご覧ください)、サンクスマッチ・新人戦では二回戦敗退、関東大会予選・インターハイ予選では共にベスト64でした。関東大会予選は帝京高校、インターハイ予選では自由が丘学園に善戦いたしましたが、一歩及ばず敗北しました。私たちの代は幾度となくコロナによって部活中止を受けましたが、奮戦の結果我々はチームとして勝ち上がることができました。

最後になりますが、5人と少なく頼りない私たちの代を支えてくれた後輩たち、日々の生活面で支えてくださった保護者の方々、偵察や応援で支えていただいたOBの方々、ご指導いただいた山崎先生・木本先生をはじめとした先生方の力なくしては私たちは最後まで活動することが出来ませんでした。この場を借りて、厚く御礼を申し上げます。

現役活動状況報告 数学科講師・コーチ補佐 木本健一 (78期)

2021年7月より、97期を中心としたチーム(Cap:宗像)で活動を進めました。中学時代に都大会出場し、96期を中心とした去年のチームでもほとんどの選手が主力として活躍するなど、個性が光る生徒たちです。

ただ、個の力が大きいというのは、例年のチームに比べてということ。他校の運動能力の高い選手には見劣るところもあり、言葉を選ばずにいえばワガママさがある5人は衝突を繰り返し、新人戦は2回戦で敗退となりました。そこから春の関東大会予選に向けて、個の力を伸ばしつつもチーム力をつける努力を重ねました。それぞれの役割を見つけ、その責任を全うし、チームとしてのまとまりが生まれるようになりました。

関東大会予選は4回戦まで勝ち上がり、ベスト32を

かけて都広尾と対戦。運動能力で劣る部分を、オールコートプレスの使い分けやゾーンアタックなど組織力で対抗し、最後までもつれる展開で3点差の惜敗となりました。

インターハイ予選では5年ぶりとなるベスト32進出。最後の試合は保善高校相手に一泡吹かせる場面もつくり、すべてを出し切った引退試合となりました。

前年に引き続き公式戦は無観客試合での開催となりま



したが、新しい施策として YouTube を使ったライブ配信を実施。関東大会予選、インターハイ予選の各試合で 30 名程の方にリアルタイムでゲームをご覧いただくことができました。生活面でサポート頂いている保護者の方、いつも応援して頂いている OB の方に、生徒の活動をご覧いただけたことを大変喜ばしく思っています。

今季の新チームは 2 年生(98期)部員がおらず、1 年生(99期)を中心としたチームです。スタート当初は心のどこかに「2 年間あるから...」という甘えがあったのでしょうか。ハードに練習をこなせない、練習を休みがちな生徒が散見されました。

気を引き締め直して夏の練習に取り組み、コロナ禍で

の活動で 3 年間実施できていなかった校内合宿も 7 月末に 3 泊 4 日で行うことができました。

8 月の練馬区民大会では 12 チーム中 4 位、9 月の私学大会では 12 チーム中 3 位と、目標としていたベスト 4 入りをいずれも達成しました。

10 月末より始まる新人戦第 4 支部大会では、ベスト 8 (本大会出場) を目標として、これから先の活動に繋がっていきます。

彼らの成長を楽しみに鍛えていきますので、引き続き応援よろしく願いいたします。

末筆ではございますが、季節の変わり目でもございませぬので、ご自愛のほどお祈り申し上げます。

現役試合情報 (全て無観客にて開催)

★高校 (高二～高三 97 期)

新人戦 第 4 支部大会

2021 年 10 月 31 日@武蔵
武蔵 ○ 75 - 56 東大付属
2021 年 11 月 03 日@海城
武蔵 ● 49 - 77 都高島

関東大会予選 (Cブロック)

2022 年 04 月 24 日@武蔵
武蔵 ○ 82 - 57 かえつ有明
2022 年 04 月 29 日@武蔵
武蔵 ○ 72 - 60 日本工業大駒場
2022 年 05 月 01 日@都広尾
武蔵 ● 71 - 74 都広尾

インターハイ予選 (Aブロック)

2022 年 05 月 22 日@武蔵
武蔵 ○ 83 - 62 都田柄
2022 年 06 月 05 日@武蔵
武蔵 ○ 85 - 61 かえつ有明
2022 年 06 月 12 日@保善
武蔵 ○ 93 - 60 明大中野八王子
2022 年 06 月 12 日@保善
武蔵 ● 64 - 136 保善 (ベスト 32)

★高校 (高一 99 期)

練馬区民大会

2022 年 8 月 18,19 日@光が丘体育館
予選リーグ
武蔵 ○ 73 - 38 都第四商業
武蔵 ○ 137 - 40 都大泉桜

1 位トーナメント

武蔵 ● 55 - 63 ○都練馬
武蔵 ● 48 - 118 ○都光丘 (4 位)

私学大会

2022 年 9 月 3,4,11 日

予選リーグ

武蔵 ○ 82 - 72 巣鴨
武蔵 ○ 70 - 54 豊南

1 位トーナメント

武蔵 ● 40 - 80 豊島学院
(12 チーム中 3 位、3 位決定戦無し)

★中学 (中二～中三 100 期)

練馬区新人大会

2021 年 11 月 3 日@石神井東
武蔵 ● 38 - 71 練馬

練馬区総合体育大会

2022 年 6 月 5 日
武蔵 ○ 59 - 52 開進二
2022 年 6 月 12 日
武蔵 ● 31 - 87 光が丘

★中学 (中二 101 期)

練馬区民大会 / 第 75 回

2022 年 9 月
予選リーグ A ブロック
武蔵 ● 22 - 24 開進一
武蔵 ○ 42 - 10 大泉桜
武蔵 ○ 42 - 10 開進二

関連サイト:

東京都高等学校体育連盟バスケットボール男子専門部
<http://hsm.tokyobasketball.jp>
練馬区中学 バスケットボール情報
<https://nerimabaske.amebaownd.com>

観戦記 中山義信 (35 期)

関東大会予選での対都立広尾戦をリモート観戦しました。結果は武蔵 71 - 74 広尾で惜敗、残念な試合でした。少々アドバイスさせて下さい。

武蔵は大変すばらしいチームだと感じました。特にディフェンスについては、皆基本に忠実に大変頑張っていて、練習を重ねれば、そう簡単に大量得点を与えない、良いディフェンスになります。

大変残念に感じたのは、オフェンスについてです。パス回しや連携プレーなどには見るべきものがあり今後が楽しみです。ロングパスを狙いすぎてミスパスにつながったケースもありましたが、オフェンスで大いに改善する必要があるのは、ゴール下やゴール近くのシュートです。シュートは自分がまず入ると感じられる場合のみ打つべきもので、そうでない場合はシュートはやめて他のメンバーにパスするべきものです。ところが皆さんは「大体あの辺に放ればいい」という感じのシュートが多く、

広尾戦では 10 本前後落としていました。

それでは近いシュートを確実に入れるにはどうすればよいか? 私は身長 170 センチ弱でしたが、高三の頃、1 試合の平均得点が 20 点前後、最高得点が 36 点で、特にゴール周辺のシュートが得意でした。そのコツは身に着ければかなり簡単なことです。シュートする前にディフェンスの動きを見て、一度ジャンプする真似をして、実は飛び上らず途中で止める。すると大抵の場合ディフェンスは私のジャンプシュートを防ぐべく飛び上がります。そこで飛び上がった相手が落ちてくる瞬間に逆に飛び上がって自分のタイミングでシュートを決める。これは上下の動きでディフェンスを振り切るわけですが、場合によっては左右の動きで相手を振り切ることも可能です。

大抵の良いプレーヤーはこのやり方を知っていて、得点に結びつけているのですが、残念ながら今回の対広

尾戦で実践しているプレイヤーは殆どいなかったようです。従ってシュートミスが多発していたと思います。

今回は3点差で負けましたが、改善すれば15点から20点の差をつけて勝てたと思っています。

私は武蔵が最後にインターハイで優勝した32期の3

年後のメンバーで、インターハイ本選では準決勝敗退でした。最近のバスケットは、その頃と比較して何から何まで違いますが、体力・体格が劣っていても、工夫をすれば勝てるようになると思います、あえて老婆心ながらアドバイスさせて頂きました。

シニアバスケットの勧め 高原洋太郎 (48期)

「人生百年時代」と言われて久しい。そのために「健康寿命」を延ばすための提案が、連日のように新聞・雑誌・ネットを賑わせている。「籠球武蔵 (RKM)」の一員としてはシニアバスケットをお勧めしたい。

私は1971年に武蔵高校に編入で入学。文京区立第六中学校時代はバレー部だったが、父親(注1)から「武蔵に受かったなら畑先生がいるからバスケットをしてみないか」と言われ、入学式前の春合宿から参加してプレーを開始。高校時代にバスケットに集中しすぎて(?)二年も浪人して入学した東京大学では、合格の報告に武蔵高校の練習に行った際、畑先生から「大学ではやらないのか」の重い一言に、思わず「やろうと思います」と言ってしまい現役を継続。就職の際は澤田嘉夫先輩(29期)のお誘いで1980年に銀行員になり、二十代後半まで社会人のクラブチームで年間50試合くらいプレーしていたが、銀行の女子チームの監督を松島茂樹先輩(46期)から引き継いでいた1992年に突然ロンドン勤務となってプレーする機会はなくなった。2000年8月に帰国してからは、大学後輩からの推薦で2007年から2014年まで大学の総監督を務め、そのご縁で、佐室瑞穂先輩(32期)からお話があり、佐室有志先輩(29期)が副会長・諸山文彦氏(日本鋼管出身)が専務理事を務める日本協会の評議員、その後の新体制で監事を務め、プレー以外の面でバスケットとのご縁が広がった。日本協会では男子二リーグ並立の長期化から2011年にFIBAから国際試合出場停

止処分を受け、出場権を得ていた女子のリオ五輪出場が危うくなり、その対応に大変な思いをしたが、プレーの方は文京六中のバスケット部OBチームで年2回区民大会に参加するなどして継続していた。

その後、六十歳を迎える2015年前後からシニアチームからお誘いを受けることが増え、現在3チーム(注2)に所属してプレーしている。コロナ禍で体育館が取れない時期が続いたが、最近ようやく練習や大会が再開しだしている。シニアバスケットは男女とも大変な活況を呈しており、区民大会に加え、全国大会、国際大会まで開催されている。ルールもシニア向けに工夫されており、文京区民大会では、速攻禁止(オフェンス5人がフロントコートに入るまでシュート禁止)、フロントコートでのディフェンス禁止、女子の1人以上オンザコートが必須で女子の得点は3点又は4点など、独自のルールが存在する。

シニアチームでプレーを再開してからは、走っている最中につま先をコートに引っかけて転ぶ、太もも裏の肉離れ、突き指や小指の脱臼など小さなけがを繰り返しているが、「時々入るシュート」は「パーバット」を入れる喜びに勝る。練習や試合のあとは、バスケットで出来上がった筋肉が活性化されるようで、短時間でも心身ともに非常に爽快感が得られ、ぎっくり腰や五十肩とも無縁になった。チームには干支が一回り上の先輩が走り回ってシュートを入れており、継続のすごさを思い知らされ、目標としている。



畑先生はバスケットの楽しみ方として「プレイヤーとして楽しみ、コーチとして楽しみ、審判として楽しむ」ことを推奨しておられたが、シニアバスケットまでは想定しておられなかったのではないかと。監督や協会の責任から解放され、現在は自分のためにプレーしている。これからは、大きな怪我に気を付けることはもちろんだが、試合中にディフェンス・リバウンドのスクリーンアウトをさぼ

り、桂木明夫先輩（45期）から叱られないよう気を付けた。

思えば、私の人生は海外駐在時代を除いていつもRKMやバスケットと関わりがあったように思う。2000年8月に帰国の発令が出たのも2000年6月に逝去された畑先生が呼んでくれたのかもしれない。現役や監督時代に畑先生から一回も褒めてもらえなかった私だが、喜んでくれているだろうか。

8月30日黒板行二先輩（23期）が亡くなられた。バスケットを愛し、武蔵高校と東大の試合の応援を欠かさず、東京学士倶楽部（東大バスケット部OB会）

の会長を長年務めていただき、大変お世話になりました。合掌。

（注1）私の父親（高原信幸）は旧制山口高校時代にインターハイに出場し、東京代表との試合で畑先生が審判を務めた。試合前に畑先生から父親が「今年の優勝は山口高校だな」と言われていたが、45度からの両手ジャンプシュートが得意だった父親のシュート後にディフェンスの足を置かれて捻挫して敗退。「東京のチームのずるさに負けた」と度々こぼしていた。残念ながら私の大学入学前の1975年4月に53歳で他界。

（注2）ガンボンズ（岸本正弘杯、文京区のバスケット大会）、セブンブラザーズ（旧七帝国大学OBチーム）、SOS（実業団出身の諸山さん・鹿子木雅先輩（36期）らが創設）。

RKMと私 後藤 脩（78期）

78期の後藤 脩（ごとう しゅう）と申します。桑水流さんにお声掛け頂いて RKM会報に寄稿するにあたり、偉大な大先輩方が読まれるこの会報に、私みたいな後輩が寄稿して良いものか、かなりのむず痒さを感じながら書き綴っております。

私の代は、中学バスケット部時代に下坂さん、日暮さん、藤吉さん、青木さん、後藤さん、平石さん方にご指導頂き、高校バスケット部時代に山崎先生にご指導頂いた世代となります。一貫して手厚い指導を6年間に渡り享受した一方で、6年間一貫して学業（成績）に苦戦苦悶していた事が、上述のむず痒さを感じる所以です。

大きさに申し上げているのではなく、社会人3年目くらいまでは夢の中で、体育、英語、数学等で取得する成績8～10から生じる余剰分を、如何に3～4が並ぶ他全ての科目に補填し、三学期に帳尻を合わせるか／往々にして合わず苦悶する過去の実体験を、月一回くらいは悪夢として思い起こすくらい、酷い学業状況でした。

言い訳としては、当時、単身赴任が多い父親からの言いつけ「英語と数学だけはしっかりやっておけ」という言葉を、「英語と数学だけやっておけば怒られない」と都合よく解釈した残酷な結果だと理解しています。

その様な学業状況の中でも、バスケット部の活動は非常に充実していました。二つ上の代（塩山さん、吉井さん方）は中学時代に都大会に出場され、高校時代もベスト8、ベスト16を狙える代であったため、我々の代は実力を肌で感じる／技を盗む事ができる恵まれた世代だったと感じています。お陰で、高校バスケット部に上がり雑用や応援が多い低学年の時期であっても、練習の苦しさよりも楽しさが勝っていた事を鮮明に記憶しています。

また、一つ上の代（柏原さん、鈴木さん、信澤さん方）も、俗に言う後輩いびり等は全くなく、私の様な馬鹿な後輩を非常に可愛がって頂いた事も重なって、武蔵バスケ



部での6年間、引退まで続けられたと振り返ってみて思います（ついでに卒業も）。

また、武蔵バスケット部を離れて二十年弱を経た今、感じる事としては、社会人になってからも自分にとって輝かしい記憶として残るバスケット部時代を当時過ごせた事／当時から相変わらずよろしくやっている78期達との関係を築けた事は、今も山崎先生のご指導の下脈々と受け継がれている武蔵バスケット部と、諸先輩方で構成されるRKMの下支えの賜物と感じています。

特に、昨今は桑水流さん／58期松本さん／61期桑田さん／数多の後輩達と、中高バスケット部の現役生を支援する活動に私も顔を出す中で、客観的に武蔵バスケット部／RKMの活動を拝見する機会を得られた事で、現役バスケット部時代に当たり前だった事が如何に当たり前の事ではなかったかを痛感しています。

例えば、中学時代には毎期3人の大学生コーチが割り当てられ日々絶え間なく指導を受ける事ができた事、山崎先生につきっきりで公私含めて指導を受ける事ができた事も、自己犠牲も辞さない山崎先生や歴代コーチ陣の温かな親心／武蔵バスケット部への想いや下支えするRKMという仕組み／枠組みがなければ、成り立ち得なかったと強く感じています。

武蔵バスケット部を離れ目下仕事と子育て等でドタバタとす

る日常ではありますが、当時我々が当たり前のように享受していた素晴らしい環境を、今を突き進む武蔵バスケ部の現役生達に合わせた新たな環境に進化させながら、未来永劫引き続き現役生が当たり前のように享受できる様、下支えの一助に今後携われればと考えています。我々の同期の本本も武蔵バスケ部コーチとして参画しているため、適時連携を図りながら支援の輪を維持できればと考えています。

まだまだお目にかかれていない偉大な先輩の皆様、最近なかなか接点を持っていない 30代/40代/50代の比較的?若いOBの皆様、引き続き RKM活動へのご参画/ご支援をどうぞよろしくお願い致します。

追伸: 最近の私のライフワークは、日本でGAFに匹敵する事業を必ず興す、という事です。参画する IT系企

業において新規事業の萌芽を見極める中、GAFの様な経済規模もユーザーもテクノロジーも圧倒的なプレイヤーにどの様に挑むべきかを日々探求する姿勢は、体格も練習日も制限のある武蔵バスケ部が、365日練習する/体格の良い輩が揃う強豪校にどの様に挑むべきかを探求する姿勢に重なります。武蔵バスケ部で培った姿勢を忘れずに、日々精進していきたいと思っております。最近、武蔵の OB名簿と RKM人脈をふんだんに活用させて頂いておりますが、こちらについても後藤から度々連絡が来た際は、温かい目で引き続き受け止めて頂ければ幸いです。

RKMに関するご意見や仕事に対するご意見 /アドバイス /ご支援等に関しては、shu.goto.8@gmail.com (080-4196-5100) までご連絡頂ければ大変有難いです。

著書紹介「決戦! 株主総会 ドキュメント LIXIL 死闘の8カ月」(文藝春秋) 秋場大輔 (59 期)

住宅設備機器大手 LIXIL の社長兼 CEO (最高経営責任者) である瀬戸欣哉氏は RKM53 期で、ご子息の峻平氏は RKM85 期です。欣哉氏は LIXIL 創業家出身者に突然辞任させられたものの、翌年に開かれた株主総会で CEO に復帰し、混乱していた LIXIL の経営を正常化させつつあります。その顛末を「決戦! 株主総会 ド

キュメント LIXIL 死闘の8カ月」(文藝春秋) とのタイトルで書籍化しました。日本の企業社会で稀に見る復活を丹念に描いた本書は好評につき発売即重版となり、アマゾンを始めとする各種レビューや Twitter 等でも高い評価を受けております。

CEO 復帰は当然ながら瀬戸氏自身の胆力、知恵、人脈そして運によるところが大です。もっとも深淵を辿ると、本人が多感な時期を武蔵、とりわけ籠球部で過ごしたことが奇跡の逆転劇に大きく作用し

ていることは明らかで、書籍では母校や RKM について詳述しております。ぜひご一読いただき、我々のルーツを思い出していただけると幸いです。

☆

(下記幹事会からの紹介です。RKMに関してこんな記載があります。)

『学校生活で唯一、真面目に続けたのがバスケットボールだった。競技そのものが楽しいと思ったからだったが、入部した武蔵高校バスケットボール部の環境は異色だった。(中略) 畑には数多くの語録があるが、教え子たちが最もよく覚えているのは「へばったら(疲れたら)頑張り」という呪文のような言葉である。「疲れていない時は誰でも頑張れる。一歩抜け出すには疲れた時でも頑張ること」「どんなに疲れていても、一歩だけ全速力を出すことはできる。それで死ぬこともなかる。だからもう一歩だけ動け」などと解釈されるが、瀬戸が社会人になってから幾度となく壁にぶつかり、知力を使ってそれを乗り越えたのは、「へばったら頑張り」を体に染み込ませたからだと言える。』



【物故者】

2021 年9月以降にご連絡があった方のご逝去を報告させていただきます。謹んで哀悼の意を表します。

23期	黒板 行二 様	2022年8月30日	ご逝去
25期	平野 精士 様	2021年10月15日	ご逝去
26期	清水 幸 様	2022年1月17日	ご逝去
30期	真島 堯 様	2022年1月15日	ご逝去
32期	羽根田 忠夫 様	2022年1月14日	ご逝去
44期	木村 哲雄 様	2022年2月4日	ご逝去
元教諭	福本 久雄 先生(体育科)	2022年1月27日	ご逝去(90歳)
現教諭	大山 輝雄 先生(理科)	2022年10月2日	ご逝去(58歳)

【会報20号に誤りがありましたので、お詫びして訂正させていただきます】

12期文	上野 敬太郎 様	ご逝去
		2021年3月15日
		(2020年と誤記)
元教諭	高橋 伍郎 先生(体育科)	2021年6月14日
		ご逝去(84歳)(掲載失念)

